

2017（平成 29）年度 公益財団法人そらぷちキッズキャンプ 事業計画

I 事業目的及び実施方針

1. 事業の目的（定款記載事項）

本法人は難病小児を主たる対象とする自然体験施設の運営に関する事業を行い、難病小児とその家族の「QOL（生活の質）」の向上や心のケアに寄与することを目的とする。

2. 本年度の事業実施方針

難病とたたかう子どもと家族に対し、継続的に安全で質の高いキャンプが提供できるよう、「SeriousFun Children's Network（以下 SF という）」の要求水準に準拠したキャンプの実施、運営体制の確立、施設・設備の整備を行う。特に本年度は、SF 正会員登録後、初めてのクライテリアビジット（現地審査）があるため、必要書類作成や審査受け入れ準備等を行う。

また、安定的な財政基盤をつくるため、多様な寄付の枠組みを開発し、支援者数の増加を図るとともに、新たな継続寄付団体を獲得する。

組織運営にあたっては、持続可能な運営体制を構築するため、事業・業務の整理及び人材配置、労務管理の適正化を図る。

SeriousFun Children's Network
故・ポールニューマンが創設した国際キャンプ団体
そらぷちは、2016 年に正会員として認可された。

II 事業内容

1. 難病小児等のための自然体験プログラムの企画及び実施（キャンプ事業）

（1）キャンプ事業の実施

年間を通じて（夏季、冬季）計 11 回のキャンプを実施する。（前年度は計 10 回実施）
特に本年度は、昨年試行した北海道内の難病児支援団体とのキャンプを 2 回実施するとともに、キャンプ参加対象病種を増やす
目的で、心臓疾患をもつ子どもを対象にした
キャンプを試行する。

（実施日程は別紙事業スケジュール参照）



「昨年のキッズキャンプの様子」

①キッズキャンプ（病児のみ参加） 2回

- ・小児がんとたたかう子ども 20名程度 3泊4日 夏季 ※SFクライテリアビジット対象
- ・心臓疾患をもつ子ども 10名程度 3泊4日 夏季 ※試行実施

※対象病種を増やすための試行キャンプを行う。実施にあたっては、

筑波大学付属病院心臓血管外科・循環器内科、家族会(保護者)の協力を得る。

②ファミリーキャンプ（家族単位での参加） 2回

- ・小児外科、脳神経外科疾患をもつ子どもと家族 5家族20名程度 3泊4日 冬季
- ・小児がんとたたかう子どもと家族 6家族24名程度 3泊4日 冬季

③レスパイトキャンプ（個別家族参加、主治医同行） 3回

- ・難病や重い障害をもつ子どもと家族 2家族10名程度 3泊4日 夏季6、8、9月

④グループ（団体参加）キャンプ 4回

「医療法人稲生会（北海道小児在宅医療支援団体）」

- ・4月 3家族12名 1泊2日 ※年間キャンプ数を増やすため4月に初実施
- ・9月 3家族12名 1泊2日

「滝川市こども発達支援センター」

- ・夏季 30家族120名 日帰り2日間
- ・冬季 15家族60名 日帰り1日のみ



「昨年度実施した主治医同行のレスパイトキャンプ」

（２）医療支援体制等の充実

キャンプ実施期間中、医療棟（ほけんしつ）を拠点とし医療支援を行うとともに、キャンプ前の家族説明会、家庭訪問等きめ細かなキャンパーフォローを実施する。キャンプ回数の増加等に対応するため、医療機関との連携強化に加え、継続的に医療ボランティアの募集・育成を行う。

また、キャンプ中の食事を安全に継続的に提供できるよう厨房運営体制の充実を図る。継続的に食事ボランティアの募集・育成を行うとともに、お茶の水女子大学栄養教育学研究室等と連携し積極的に学生インターン（研修生）の受入れを行う。

（３）キャンププログラムの充実

キャンプ参加者への安全かつ楽しいキャンププログラムの提供を行うとともに、乗馬や森あそび、雪あそび等のプログラムの充実に必要な施設・道具の整備を行う。

- ・ キャンプの中核プログラムとなっている乗馬等の充実のため「北海道障がい者乗馬センター」と共同でプログラム開発を行うとともに、キャンプ場内の馬関連施設の充実を図る。（大あずまやアプローチ園路の整備等）
- ・ 森あそびを充実させるため、ツリーハウス周辺のプログラム関連施設・設備の整備を行う。（ジップラインや展望デッキ、アプローチ園路整備等）
- ・ 雪あそびのための必要な施設・設備・道具を充実させる。
- ・ 年間を通じて、SF 基準に準拠したボランティア募集・育成システムを実行する。

（ボランティア研修キャンプ（11 月、3 月）の実施他）

- ・ キャンパーフォローの一環で、過去参加者を対象に研修生として受け入れを行う。



「見晴らしの丘からみた施設群」



「専用施設群外観(冬季)」

(4) キャンプ場（施設・草地・森）の維持管理及び整備

安全で快適なキャンプの提供のための施設維持管理を推進するとともに、施設及び設備の効率的な管理等を徹底し管理コストの軽減を進める。また必要な施設等の整備を行う。

- ・主要施設群「食堂&浴室棟」「宿泊棟2棟」「医療棟（ほけんしつ）」「事務棟」「ゲストハウス」「倉庫棟2棟」「大あずまや」を管理するとともに、車いすで行けるツリーハウスや森、草地の維持管理を実施する。
- ・浄化槽等の設備管理、草刈り、除雪等の屋外管理、施設清掃等については外部委託を拡大するとともに、維持管理ボランティア（地元支援団体・企業等）も可能な範囲で積極的に活用することにより、人件費等のコスト軽減を図る。
- ・施設利用者が安全で快適に過ごせるよう、必要設備の設置や軽微な改修を行う。
また、森エリアへの安全で快適な移動のためアプローチ園路等の移動手段を整備する。
- ・中長期的な施設及び設備の修繕計画を策定し、計画的に修繕費の積立を開始する。



「森へのアプローチ園路と移動用カート」

2. 難病小児等のための自然体験活動に関する啓発・普及（広報 PR・ファンドレイジング）

昨年度に作成した広報 PR・ファンドレイジング戦略を実行・検証・改善し、役員を含む法人全体が一体となった広報 PR・ファンドレイジング活動を推進する。また、安定的な財政基盤をつくるため、現在の「企業寄付」、「個人寄付」だけでなく、多様な寄付の枠組みを開発し、支援者数の増加を図るとともに、新たな継続寄付団体を獲得する。特に、本年度は「SF 正会員」という世界基準の「ブランド（安全とサービスの質）」を活用した広報 PR を行い知名度の向上を図る。

(1) マスメディアへの露出

キャンパー及び家族の心情に配慮しつつ、知名度を上げるため、テレビや新聞、雑誌等マスメディアへの積極的な露出を図る。具体的には役員や既存支援企業のネットワーク等を活用しマスメディア用の企画資料を作成し、取材要請を行う。（本年度は、ACジャパンの全国キャンペーンの申請を行う。）

(2) インターネットを活用したPR（ホームページ、フェイスブック等）

インターネットを活用したPR（ホームページ、フェイスブック等）を行うが、閲覧者数を増やすため、積極的な更新、情報発信に取り組む。特に、関連イベントとの連携や閲覧分析等を行うことで、効果的な情報発信を行う。

(3) 広報ツールの充実

アニュアルレポート（企業用パンフレット）、振込用紙付リーフレット（個人用）、プロモーション映像（DVD）だけでなく、カレンダーなどの広報ツール（オリジナルグッズ）を充実させ、各ツールの特性にあわせ効果的に広報PRに活用する。



「オリジナルグッズ(試作)」

(4) 企業・団体への支援依頼活動

役員や支援者等のネットワークを活用し、企業・団体へ以下①～③のような種類の支援依頼活動を行う。また各企業・団体のニーズにあわせ、その他メニューも提案する。事業説明には、主にアニュアルレポートやプロモーションDVD等を使用する。また継続支援を得るために既存の支援者フォローも重要視し活動する。

① 寄付（継続）、賛助会費

当法人の活動に賛同してもらい、寄付、会費による支援を依頼する。キャンプ実施以外の施設維持管理、職員配置にも費用がかかることを説明し継続支援を依頼する。

② 助成金（補助金）

助成金（補助金）については、常時情報収集は行うが、使途が細かく制限される場合が多いため、当法人の事業計画に沿って利用しやすい助成金に限定して活用する。

「昨年度実績」

東京マラソン、ボーイングジャパン、日本財団、日本メイスン財団

③ 応援チャリティキャンペーン

自社商品の売り上げに応じて寄付をするなど、支援企業の企業活動に関連する応援チャリティキャンペーンが実施できれば、継続されやすい支援となるため、積極的に企画提案していく。（特にドラッグストア業界関連企業に積極的アプローチする）

「昨年度実績」

客 1 人 1 円、自動販売機、北海道物産通販、ランタン、農産品、オムツ、箱ティッシュ、食パン、ミネラルウォーター、ラーメン、灯油、名刺

「応援自動販売機」



（５）支援者イベントでのブース出展

支援団体等主催のイベントに参加し、イベント趣旨にあわせPRブース等を出展する。

2017 年 5 月 コールマンジャパン 2018 年 2 月 東京マラソン財団

2018 年 3 月 日本チェーンドラッグストア協会 他

イベントでのPRの企画・準備・実施にあたっては、イベントボランティアを活用し、その内容を充実させる。

（準備段階でのマスコット人形製作等も含む）



「支援者イベントでのブース出展」

（６）店頭募金箱・ポスター設置依頼

日本チェーンドラッグストア協会の継続支援として、加盟企業へ協力依頼し全国のドラッグストアの店頭に募金箱を設置している。設置していない加盟企業・店舗もあるため、協会事務局と連携し、設置を促す取り組みを行っていく。

その他、滝川市や北海道内を中心に、様々な店舗に依頼し、募金箱を設置しているが、引き続き個別の募金箱設置依頼も、積極的に行っていく。

広報ツールとしては、募金箱以外に、ポスター、ステッカー等を活用する。

※店頭募金箱の設置拡大にあたっては、チェーン展開している企業、業界団体等へ設置依頼のアプローチを積極的に行う。（スーパーマーケット、ホームセンター、飲食店など）

（７）各種講演会でのPR

支援団体等の主催する講演会などに演者として参加し、事業説明、PRを行う。

広報ツールとしては、振込用紙付リーフレット、プロモーションDVD等を活用する。

(8) 施設見学及びキャンプ見学

難病小児支援関連団体との交流を深め、可能な範囲で施設見学等の受入れを行う。

その他の団体の見学については、キャンプ実施に影響のない範囲で、施設見学を受入れる（原則、資料代 500 円/人、7～9 月はキャンプ繁忙期のため見学不可）。

キャンプ中の見学に関しては、スタッフ配置等キャンプ運営に影響がでるので、慎重に調整する。原則個人の見学はキャンプ場一般公開イベント日のみとする。

(9) 写真展の開催

昨年度、個人支援者のフォローアップや新規獲得を目的に、キャンプの魅力を発信する写真展を、写真家小西貴士氏の協力のもと、試行開催した。写真展会場は支援団体に無償提供を受けたが、支援団体との連携事業としても効果があった。そこで本年度も、支援団体に会場無償提供を依頼し、以下の場所で開催を計画する。



「写真展&トークショー」

「昨年度実績」

・ダッドウェイ@横浜 ・滝川市役所 ・道の駅たきかわ

「本年度計画」

・フジテレビ@台場 ・コールマン@新宿 ・日本コカ・コーラ@渋谷 他

(10) 広報PRイベントの開催

市民や支援者との交流を目的に「キャンプ場公開イベント」を10月に開催する。滝川青年会議所やFM北海道の協力を得て、ウォーキングイベントやラジオの出張生放送、ミニライブ等を実施する。イベント運営にあたっては、イベントボランティアを活用し様々な催しものを企画実施する。



「キャンプ場市民開放イベント」

加えて本年度はSF正会員を記念し「医療ケアを必要とする子どものキャンプ国際シンポジウム（仮称）」の開催を企画検討する。実施にあたっては、SFより講師の招聘を計画する。（札幌 or 東京開催予定）

（11）個人への支援依頼活動

個人寄付の新規獲得、継続依頼にあたっては、振込用紙付リーフレットやイベント案内、キャンプ場通信などの資料が中心となるが、その他様々なツールや機会で積極的な情報提供を行っていく。

① 寄付（継続）、応援会員

年に1回（11月頃）活動報告資料一式を郵送し、継続支援の依頼を行う。

② 応援キャンペーンへの参加

応援チャリティキャンペーンの告知を行い、応援商品等を購入してもらう。

3. 難病小児等のための自然体験活動に関する調査及び研究（調査研究事業）

本年度は、医療ケアを必要とする子どものキャンプを実践している国内団体を招聘し、事例収集やボランティアの相互交流等を目的としたシンポジウムを開催する。

（日本財団の開催支援を得て東京で開催予定）

また、ネットワーク拡大を目的とし、関連学会（医療系・野外活動系）等へ参加するとともに、職員研修として、各種講習会参加、他施設見学等を行う。

キャンプ体験の効果については、キャンプ後アンケートや保護者及び主治医へのヒアリングを通じ、継続的に記録収集・分析を行う。

4. SF との連携の強化

SF との連携強化のため、正会員に求められるキャンプ運営上の様々な基準に対応するとともに、各種の情報交換をウェブ会議や現地打合せ、研修会参加、スタッフ相互交流などにより行う。特に本年度は、SF 正会員登録後、初めてのクライテリアビジット（現地審査）があるため、必要書類作成、審査受け入れ準備等を行う。



「SF正会員になり新しくなったロゴマーク」